カトリック大名町教会ニュース

DAIMYOUMACHI CATHOLIC CHURCH NEWSLETTER

8

〔ミサ時間〕主日：７時・９時30分／ベトナム語（第２・第４日曜日）：13時半／英語：16時

〔ホームページ〕http://www.daimyomachi-c.or.jp/

〒810-0041 福岡市中央区大名２－７－７〔巡〕能古島カトリック教会 ミサ（土）18時

TEL：092-741-3687 Fax:741-5107 〒819-0012 西区能古弁当1621-12

発行責任者：中村 彰 神父

8月6日～15日 日本カトリック平和旬間

福岡教区年間目標：互いに支え合う「交わりの教会」となる

大名町教会年間テーマ：互いに支え合う「交わりの教会」となる

Becoming a ”Church of communion” and mutual support

８月のお知らせ

◆FYCC 18
　１０日（土）14時～
　１２日（月・祝日）17時
　会場：旧福岡カトリック神学院・
　　　　大名町教会
　対象：福岡教区の中高生
◆平和を祈る集い　アベイヤ司教司式
　１２日（月・祝日）
　　10時～12時　　分科会
　　13時～14時半　「平和に対する主張」
　　15時～16時　　平和祈願ミサ（インターナショナルミサ）
◆和田墓地開放
　１３日（日）～１５日（火）
　　10時～15時
　・追悼ミサ・納骨式　１５日（火）
◆聖母の被昇天ミサ
　１５日（木）10時
◆聖モニカ祭　感謝ミサと追悼式
　３１日（土）13時～15時

1927　福岡教区創立１００周年開幕　2027

福岡教区創立１００周年のための祈り

天の父よ、
福岡教区のこれまでの歩みを、支えてくださったことに感謝します。
　この地域で旅する共同体として、神の国の実現を待ち望みながらともに祈り、みことばに耳を傾け、ご聖体に生かされて人々とともに歩んできました。
　この道のりを振り返るとき、聖母マリアとともにあなたを賛美し、すべてがあなたの恵みによるものと強く感じます。福音を証しし、宣べ伝えるようわたしたちを派遣されたイエスの呼びかけに十分に応えられなかったことをおゆるしください。
　天の父よ、これからも、あなたの愛にとどまりながら、聖霊に導かれて福音の光をともしていくことができるようにわたしたちを見守ってください。
　わたしたちの主イエス・キリストによって。
　アーメン。

ヨセフ浦俊雄神父様帰天

1932年５月22日：生まれ。
1963年３月24日：司祭叙階
1967年３月：大名町教会助任
2016年３月：引退後司祭の家
2024年７月28日：帰天

◆ジョン神父：　＊キリスト教入門講座

聖書学習会　夏休み

◆チュエン神父：聖書のわかちあい

ゆるしの秘跡：希望される方は、司祭に直接ご相談ください。（定期：毎週土曜日１０時～１１時半）

「耳が痛いです」

　神学生の頃、ラテン語を教えてもらっていたカナダ人スルピス会員のジャック・ツルデル神父様が、私たちがラテン語の授業で間違えたり、発音を間違えたりした時に、「耳が痛いです」とよく言われていました。その頃は、なぜ「耳が痛いです」と言われたのか、よく分かりませんでした。単純に「間違えています」の翻訳かと思っていました。

　今、大名町教会で韓国人の司祭とベトナム人の司祭と３人で平日のミサを交代で司式しています。日本語は難しい言語だと言われますが、同じ漢字でも音読みと訓読みがあり、ひらがなの読み方もその時の文脈で変わります。彼らが福音朗読する時や説教する時に間違えて発音したり、大きな声で読み直ししたりする時に、毎回「耳が痛いな～」と思います。ツルデル神父様が「耳が痛いです」と言っていた意味はこういうことなんだと実感として最近分かった次第です。

　間違いを責めているわけではありません。間違えるのは当たり前だと思います。

　自分が外国語ミサを司式しても同じだろうなと思います。信者さんたちも同じ思いをされているのでしょうか。ツルデル神父様の忍耐と受け入れ、大きな愛の心による導きに最近やっと気づかされています。私が忍耐するのは大名町に赴任している短い間だけでしょうが、ツルデル神父様は神学校で何十年も忍耐されて来たのだろうなと、恩師の愛に感謝を深めています。

大名町教会主任司祭
ヨセフ　中村　彰　神父

うれしい初聖体　7月7日

7月7日の主日のミサで4人の子どもの初聖体式が行われた。

ご聖体のように真っ白の衣をつけ、女子は頭にベールに花輪をつけ、はにかみながらも誇らしそうな4人の姿は、大名町教会の光にもみえた。

アシジのフランシスコ
麻生　真（まこと）

ずっとお勉強してきて、やっとイエス様のお体をいただけて嬉しかったです。

ミカエル
麻生　晃（あきら）

神さまにたくさんお祈りできました。とても緊張したけど嬉しかったです。

マリア・テレーズ・ベルナデッタ
山口　みりい

とても嬉しかったです。ありがとうございました。

マリア・ミカエラ
田村　心乃（ここの）

お返事の声を大きく出せなくて悲しかった。ロウソクの灯が心に燃えました。

保護者の方々のよろこびの声

＊「本当に感動しました。一年三カ月、お勉強は大変でしたが、この日を迎えることができ、喜びと感謝で一杯です。神さまのお恵みを一杯受けて育ってほしいです。」

＊「みなさんの祈りのうちに初聖体を受けることができて、すごくうれしいです。これからも神様のお恵みに感謝して子どもとともに信仰の道を歩んでいきます。」

＊「感激で胸が一杯です。洗礼から初聖体まで無事にここまでこられたことが幸せなこと。神さまとみなさまに感謝。三代、与れたことが本当にうれしいです。」

＊「本当に待ちに待った初聖体だったのでとても嬉しいです。」（初聖体を受けた子どもと顔を見合わせて「待ちに待っていたのよね。」と。）

初聖体を迎えた子ども達へ

初聖体おめでとう。神さまに愛されて、ご聖体であるイエス様とひとつになって、みなさんのこれからの未来がますます輝きますように。そして、この大名町教会で、神父様や信徒の方々に、たくさん愛されて、神さまの愛の中で育つ喜びに出会えますように、お祈りします。

初聖体クラス担当　カタリナ　柴田　篤子

福岡教区聖体奉仕者任命式

7月21日（年間第16主日）午後、大名町教会で福岡教区聖体奉仕者の任命式が行われ、26小教区の66名がアベイヤ司教から任命書を授与され、向こう3年間の奉仕の任務を委ねられた。

大名町教会からは濱崎敦郎、豊嶋玲、豊嶋幸恵、濱崎公夫、宮本健郎、田上朝子の各氏が任命書を受け取った（任命順）。

聖体奉仕者は正式には「聖体授与の臨時の奉仕者」と呼ばれ、通常の聖体授与者である助祭や司祭が病気、高齢などのために聖体を授与できない場合、あるいは拝領者が多くてミサが長引く場合に司祭とともに聖体を授与したり、病気の人のもとを訪れて聖体を授与する人のことを言う。主任司祭の推薦を受け司教によって任命される。

任命式に先立って、長崎教区の嘉松宏樹神父（典礼司教委員会秘書）による講話が行われた。

嘉松神父は、昨年出された教皇フランシスコの使徒的書簡『わたしはせつに願っていた』を取り上げ、神は、わたしたちの祈りより先に、まずご自分の方からわたしたちにご自分とその愛を表わされ、そのキリストと出会う場が典礼である、そのことが聖書の朗読や、司祭と会衆の所作や交わされる言葉を通して実現し、こうしてわたしたちは典礼によって豊かに養成されていく、そのための奉仕の一つが聖体奉仕である、と語った。

アベイヤ司教は任命式ミサの説教で、信徒の奉仕者が病人のもとへ出かけて行って聖体を授与する大切さを強調した。

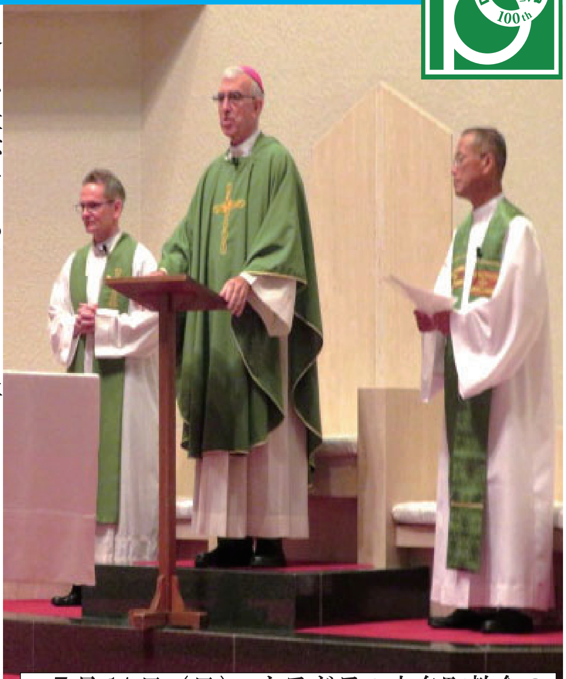
声　ふたたび任命を受けて

「私なんかでいいのかなあ」と常に引け目を感じていますが、それは神様より自分を優先していることだと気付かされました。

ご聖体は神様が私たちをほっとけなくてご自身を届けてくださること。使命を見失うことがないようにしたいです。また、ご聖体には神様のあふれんばかりの愛がこめられていて、神様は多くの人に伝えたい、運びたいと望んでいらっしゃる、そのことを真正面から受け止める謙虚さと勇気が与えられますように祈りたいです。

マリア・ヨセフィーナ　田上　朝子

１９２７　カトリック福岡教区創立１００周年開始ミサ　２０２７



今日、喜びをもって２０２７年7月16日に記念し祝うための歩みを始めますと、アベイヤ司教は福岡教区創立１００周年の記念ミサを司式、宣言された。

①日本の宣教の保護者、F・ザビエルが福音の種を蒔かれた日本の教会の歩み　②福岡教区における教会の誕生と成長の歩み　③尊い遺産、教区の土台となり福音を証しされた殉教者　④感謝、情熱、希望はこれからの３年間の歩みの光　⑤神への信頼、人々に対する愛が福音宣教には大切　⑥過去を振り返り、赦し、償い、改心の時　⑦派遣の使命　⑧今年の目標「互いに支え合う交わりの教会となる」具体的な活動のお願い。

これからの３年間、教区民が一つになって福音に従い歩みましょうと話され、１００周年の祈りをささげられた。SNSを通して、全教区民にメッセージを配信された。情熱の３年間、暑い夏が始まりました。「この小さき者に冷たい水１杯でも飲ませてくれる人は必ずその報いを受ける」みことばを黙想し、みこころを行うことができますように、年ごとの目標を歩みたいものです。

フランシスコ・ザベリオ　濱崎公夫

7月14日（日）、カテドラル大名町教会の主日のミサを教区長アベイヤ司教が主司式、福岡教区創立１００周年の開始を宣言した。

教区内の殉教者の遺徳にも触れながら、長崎教区から分離独立した1927年からの歩みをたたえ、さらに宣教の歩みを共に続けていけるようにと、「福岡教区創立100周年のための祈り」を共に祈った。（祈り文：１面）

典礼を手話でささえる

今回のミサで手話通訳の奉仕をされた柚木泰・智子ご夫妻です。

特に、教区の行事でのミサ（YouTube配信）では手話通訳は欠かせません。教会でしか使われない言葉があったり、聖人の名前は指文字を使い、新しい典礼の言葉に新しい手話を取り入れたりしながら、その日の福音が伝わるようにと、努力されているそうです。（広報部）

教区和田墓地

7月28日（日）の9時、猛暑の中で和田墓地の清掃が行われました。8月15日（聖母被昇天祭）と、11月（死者の月）の第２日曜日に行われる「福岡教区和田墓地ミサ」に先立ち7月と10月の年２回、納骨堂の一般清掃が呼びかけられています。９００室のうち、２５０室が大名町教会の信徒所有です。教区和田墓地には、歴代の司教様をはじめ、神父様やシスター方などの納骨室もあります。一般清掃日以外に墓地委員は年４回以上の清掃をされています。

一般清掃日に大名町教会からの参加者がいつも少ないそうです。今回は参加者26人中３人でした。

大名町教会の墓地委員は豊嶋司さんです。長年、ご奉仕していただいています。所有されている方、少しでも協力し合いましょう。今日は清掃が終わり、中村彰神父様司式の主日のミサに与ることができました。私たちの小さな奉仕も神さまがお望みのことだと思いました。（広報部）

お願い

駐車場委員からのお願いです。

主日の９時半のミサに車で来られて、駐車場の枠外に駐車された方は、ミサ終了後、取りあえず速やかに車の移動をお願いします。

また、午後からの外国語ミサ参加者のために長時間の駐車もご遠慮ください。

ヨゼフ会

ヨゼフ会は、毎月第二火曜日、午後七時から「聖書と集う会」を行っています。

次週のミサの「聖書と典礼」を用いて、参加者皆で読み回しして、黙想し感じたこと思いなどを皆で語り合います。

話が進むにつれ、いつもとても盛り上がっています。それぞれの思いの違い、共感など話は尽きません。

一通り分ち合いがつきると、一品持ち寄りによる軽食を広げ、盛り上がりは笑顔を交え日常の出来事や将来のことなど、時には深い話？などなど、信仰を共にするもの同士の会話はほんとうにいいものですね。

ヨゼフ会ではこの輪をもっともっと広げて行きたいと思っています。

皆さまも是非一度顔をみせられませんか、前回は８名の参加でした。女性の参加も大歓迎です。

一品持ち寄りはできる方で間に合っていますので手ぶらで参加OKです。

また、ヨゼフ会の「定例会」は毎月第一日曜ミサ後です。こちらへの参加も宜しくお願い致します。ヨゼフ会のモットーは（私が、教会共同体が、元気になる。）です。楽しいひと時をともに過ごしましょう。そして楽しい企画をたてましょう。

・・キリストの愛に駆り立てられて・・

●今年の11月10日には、佐賀・不動山に巡礼一日バスツアーを計画したいと思います。乞う期待！

大名町教会ヨゼフ会
ベルクマンス　目良　豊

宣教司牧評議会

（7月14日）

◆議題

1　長寿の祝賀会、街頭募金は次の日程で実施する。

・長寿の祝賀会＝9月8日（日）。

・街頭募金＝12月1日（日）。

2　収納区分の見直しについて営繕部より提案があり、原案に沿って実施することで承認された。

（1）提案理由

不要物廃棄作業（2月13日～3月19日）が一段落したので、収納区分を明確にして整理整頓を促進する。

（2）見直しの考え方

①信徒会館の収納区分を見直す。

②信徒会館は、福岡カテドラルセンター及び大名町教会共用の施設とする。

③宣教司牧評議会が管理責任を負う。

・収納区分の最終決定後は表に収納物の内容を明示し定期的な見直しを実施する。

（3）具体的収容区分（略）

（4）大名町教会の昨年度電力使用実績を踏まえて、電力料金プランを業務用電力Ａ－1に変更する。

（5）毎週のミサ後の清掃の課題を整理し、対応策を検討するため検討委員会を立ち上げる。

（6）葬儀等の連絡網について現状把握を行い方針の再確認を行う。

・葬儀等の信徒へのお知らせの是非については、ご遺族の意志が優先されるべきであるが、葬儀に参列したいという信徒の要望があること、カトリックの葬儀は未信者や教会を離れている人に対する福音宣教の場としても大切にすべきであることを踏まえた対応が必要であるとの意見があった。また、自分の葬儀について生前に家族で話し合い、希望を伝えておくことが大切であるとの意見があった。

◆報告事項

1　駐車場検討委員会、及びカテドラル使用規則検討委員会を立ち上げて課題の整理と対応策の検討を始めている。

・駐車場については枠外駐車をある程度認めざるを得ないのが現状であるが、譲り合って使用している意識を共有することの大切さが指摘された。

2「看板・掲示板改修工事」及び「門表改修工事」、並びに「高圧ケーブル更新・高圧交流気中開閉器（PAS）移設工事」については、福岡教区司教顧問会において援助金申請が要望通り承認された旨報告があった。

3　営繕部

（1）教会の床マット更新を検討中であり、7月16日から「お試し」を開始する。

（2）そのほか4件の施設の故障修理等の案件について実施状況の報告があった。

4　典礼委員会

（1）「福岡教区創立100周年の祈り」を月2回唱えることとし、「新しいミサ曲」の練習を月に2回行う。

（2）典礼奉仕者の交流を図り、新しく奉仕をして下さる人の募集に繋げるために、次の要領で典礼部の集まりを行う。

日程＝8月25日（日）9：30ミサ後・掃除後。　場所＝1F講堂

参加者＝聖歌隊・オルガン奏者・朗読奉仕者・聖体奉仕者・聖書と典礼綴じ・拝領時の誘導係・花活け係・手話通訳・評議委員三役

（3）「初聖体式」の振り返りの報告があり今後のための課題を共有した。

5　宣教部

（1）平和旬間＝8月6日～8月15日の「平和を祈る集い」において大名町教会の取組とし祈りのカードを大きなボードに貼って展示する

（2）シノドス的実践（聖霊、聴く教会のために）として9月～11月に計3回の分かち合いを行う。

6　その他

（1）教会学校リーダー会議議事録は今後毎月資料として添付してほしい。

（2）聖ペトロ使徒座献金（6月25日）

¥45,113円

（3）8月より宣教司牧評議会は第3日曜日へ変更する。

大名町教会の現勢　7月

【転入】ようこそ（…教会より）

・マリア　篠原　聖美（福岡・黒埼）

・アガタ　高取　澄子（福岡・浄水通）

【帰天】永遠の安息をお祈りします

7月4日

・ドミニカ　中村　由起子

平和旬間大名町教会の取組

8月6日（火）から15日（木）まで、「日本カトリック平和旬間」です。大名町教会宣教部では、平和への思いを共有するために、みなさんに平和についての思い・願い・祈りなどを所定のカードに書いていただき、ご自分でパネルに貼っていただこうと企画しました。

　パネルは、1階ロビー窓際に立てかけて置きます。カードやペンなども準備いたしますので、4日（日）から12日（月・振替休日）の間に、ご協力をお願いします。教会を訪れた人にも呼び掛けていきます。

年間＝神の民の集会

初期の信者たちは一つに集まることを大切にしました。とりわけ大切な集まりがミサでした。「信者たちは家ごとに集まってパンを割き、…」（使徒言行録2・46）、「週の初めの日、パンを割くために集まった」（同20・7）。本欄ですでに書きましたように、「週の初めの日」とは今の日曜日、パンを割くとはミサのことです。

　この集まりは、以来、現在まで途切れることなく連綿と受け継がれてきました。「ミサがキリスト信者の生活の中心であり、生活のすべてがミサに結ばれ、ミサから流れ出、ミサに向かっている」（「ローマ・ミサ典礼書の総則」1）からです。

　そのミサの式次第の冒頭に大切なことが書かれています。「会衆が集まると入祭の歌が歌われ、その間に司祭は奉仕者とともに祭壇へ行く」。ミサが行われるためにはまずわたしたちが集まらなければなりません。「ミサの最初の行為は『会衆が集まる』ことです。キリストによって教会が一つに集められた交わりの共同体であることを示す大切な行為です」（『キリストとわたしたちのミサ』サンパウロ6ページ）。

　こうして司祭とわたしたちからなる神の民の集会が生まれ、この神の民の集会がミサを行うのです。司祭は、その集会の真ん中におられるキリストの代理者であり、しるしです。わたしたちはその司祭＝キリストを囲んでともにミサをささげます。ともにみことばを聴き、司祭がささげる祈りに耳を傾け、呼びかけや招きの言葉に応え、司祭の所作に目を凝らし、朗読など委ねられた奉仕を果たし、立つ、座る、行列する、歌うなどの所作を同じくします。

ミカエル　深堀　純